

この上、捨てられて候四十余年の経々の今に候いかになんど俗難ぞくのなんぜば、返吉ほんきつして申まべし。塔とうくむあし
 しろは、塔とうくみあげては切きりつするなりなん申まべし。此この譬へは玄義げんぎの第二にの文もんに「今の大教も若もし起おれば方
 便へんの教絶ぜつす」と申まうすしやく。妙せうと申まは絶ぜつという事、絶ぜつと申ま事は、此この経きやう起おれば已前いぜんの経きやう々々を断たち止やむと申ま
 事ことなるべし。「正直しやうじき捨しや方便ほうへん」の捨しやの文字もじの心、又嘉祥かじやうの「日出いぬるは星ほしかくる」の心こころなるべし。但ただ爾前にぜん
 の経きやう々は塔とうのあしゝろなれば切きりつするとも、又塔とうをすりせん時は用もちうべし。又切きりつすべし。三世さんぜの諸しよ仏ぶつの
 説法せっぽうの儀式ぎしきかくのごとし。又俗難ぞくのなん云、慈覚じかく大師だいしの常行堂じやうぎやうどう等の難なん、これをば答こたうべし。内典ないでんの人外典ひとげでんをよ
 む、得道とくどうのためにはあらず、才学さいがくのためか。山寺やまでらの小兒しょうにの俱舎くしやの頌じゆをよむ、得道とくどうのためか。伝教でんぎやう・慈覚じかく
 は八宗はつしゆを極給きやくめへり。一切いっせつ経きやうをよみ給たまふ。これみな法花ほつげ経きやうを詮せんと心こころへ給たまはん梯磴ていとうなるべし。又俗難ぞくのなん云、何
 にさらば御房ごぼうは念仏ねんぶつをば申ま給たまぬ。答こた云、伝教でんぎやう大師だいしは二百五十戒にひゃくごじゆうかいをすて給たまふ。時ときにあたりて法花ほつげ円頓えんどんの戒かいに
 まぎれしゆへなり。当世とうせいは諸宗しよしゆの行ぎやう多おほけれど、時ときにあたりて念仏ねんぶつをもてなして法花ほつげ経きやうを誘ほうずるゆえに、
 金石きんせき迷まやすければ唱候となえはず。例れいせば仏十二年ぶつじふにねんが間あひだ、「常楽我淨じやうらくがじやう」の名なをいみ給たまふ。外典がいでんにも寒食かんじやくのま
 つりに火ひをいみ、あかき物をいむ。不孝ふこう国こくにと申ま国こくにをば孝養きやうやうの人ひとはとをらず。此等こらちの義ぎなるべし。
 いくたびも撰せん択たくをばいろはずして先まかうたつべし。又御持ごじ仏堂ぶつどうにて法門ほつもん申またりしが面目めんもくなんどかゝれて
 候事こうじ、かへすく不思議ふしぎにをばへ候。そのゆへは僧そうとなりぬ。其上そのうえ、一閻浮提いちえんぶだいにありがたき法門ほつもんなるべ
 し。設た等たい覚かくの菩薩ぼさつなりともなにとかをもうべき。まして梵天ぼんてん・帝釈たいしやく等は、我等われらが親父おや釈迦しやくか如来にがひの御所ごしよ
 領りやうをあづかりて、正法しやうぽうの僧そうをやしなうべき者ものにつけられて候。毘沙門びしゃもん等は四天下してんげの主ぬし、此等こらちが門かどまほり。